

4. 平成 20 年度採択案件の概要

注：各案件の概要は JST に対し本国内研究機関より応募がなされたものの要約であり、案件名・案件概要は今後実施予定の実務的協議等を経て、変更の可能性があります。

【環境・エネルギー】

国名	インドネシア	案件名	インドネシアの泥炭における火災と炭素管理	
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関	
インドネシアの熱帯泥炭に蓄積される多量の炭素は、急速な開発の進展を受けて膨大な量の二酸化炭素の放出源となりつつある。かかる現状を受け、火災検知・制御システム・炭素量評価システム・炭素管理システム・教育・実習システムの構築を図り、熱帯泥炭の統合炭素管理を目指す。		<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術担当大臣府 ・ボゴール農科大学 ・パランカラヤ大学 ・インドネシア科学院 	北海道大学大学院 農学研究院	

国名	タイ	案件名	気候変動に対する水分野の適応策立案・実施支援システム構築	
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関	
タイを中心とした途上国における水分野の気候変動の適応策立案・実施支援システムの構築を行う。具体的には、水災害リスク評価、気候変動や土地利用変化に伴う水循環変動の継続的監視のための観測の整備強化等を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・カセサート大学 ・王立灌漑局 ・タイ気象局 	東京大学 生産技術研究所	

国名	タイ	案件名	熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発	
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関	
省エネルギー型個別循環水再生利用技術とその維持管理システムの開発を行い、同システムを利		<ul style="list-style-type: none"> ・タイ環境研究研修センター ・チュラロンコン大学 	東京大学 環境安全研究センター	

<p>用した工場排水等の再生利用技術を開発する。かかる技術開発に併せて、持続的な水利用のための雨水－地下水管理方法等を整備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カセサート大学 	
--	--	--

国名	ツバル	案件名	海面上昇に対するツバル国の生態工学的維持
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関
<p>フナフチ環礁において、生態、リモートセンシング、海岸工学、地学調査を通して、砂の堆積促進の現状と海面上昇後の予測・評価を行い、海岸侵食対策や海岸管理計画の策定支援、モニタリング・評価体制を構築する。さらに、砂の生産能力の低下が顕著な場所を特定し、サンゴと有孔虫の移植等による砂生産の再生と島の維持を図る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・天然資源環境省環境局 ・太平洋島嶼応用地球科学研究委員会 ・南太平洋大学 	<p>東京大学大学院理学系研究科</p>

国名	ブラジル	案件名	サトウキビ廃棄物からのエタノール生産研究
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関
<p>サトウキビ産業から発生する非食用バイオマス資源を糖化して燃料用エタノールを生産するため、前処理技術の適用化研究を行うとともに、ブラジルで開発されている糖化酵素の利用による糖化技術の研究開発等を行い、温室効果ガス削減効果等の解析、評価を実施する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・リオデジャネイロ連邦大学 ・サンタカタリーナ連邦大学 	<p>産業技術総合研究所バイオマス研究センター</p>

国名	ガボン	案件名	熱帯林の生物多様性保全および野生生物と人間との共生
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関
近年の開発に伴う熱帯林地域の生物多様性の急激な低下を阻止するために生物種のモニタリングを実施して季節による動態を把握し、生態系の保全を図るとともに、エコ・ツーリズムや環境教育などの自然資源の持続的利用による地域振興、それにとまなう野生動物と人間との安全な接触と共生のための対策を検討する。		・熱帯生態研究所	京都大学大学院 理学研究科

国名	エジプト	案件名	ナイル流域における食糧・燃料の持続的生産
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関
ナイルデルタにおける広域水収支、用水の配分管理・反復利用、農地における塩類集積及び農民の耕地利用・生産システム並びに水質汚濁の分析により、農業用地としての持続性の観点からデルタの状況評価を行う。また、節水灌漑が導入できるための条件を検討するとともに、気象・水文・水質条件に応じた不毛地の緑化・バイオ燃料生産の可能性を示す。		・カイロ大学 ・水資源・灌漑省 国立水資源研究センター	筑波大学大学院 生命環境科学研究科

【防災】

国名	インドネシア	案件名	インドネシアにおける地震火山の総合防災策
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関
地震・津波・火山噴火の予測に関		・インドネシア科学院	東京大学

<p>する基礎的研究を行った上で、液状化対策などのハード的対策及び情報伝達手段などのソフト的対策の研究を行う。また、教育・研修手法の研究開発を実施し、政府・自治体関係者を含む研究者コミュニティを創設して総合的な地震火山防災力向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バンドン工科大学 ・火山・地質災害センター 	地震研究所
--	---	-------

国名	ブータン	案件名	ブータンヒマラヤにおける氷河湖決壊洪水に関する研究	
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関	
<p>決壊洪水が危惧されている氷河湖について、主に衛星データの解析によって氷河湖の危険度に関する客観的な再評価を行う。このデータに基づき調査・対策が遅れている流域を対象として現地調査を行い、決壊時のハザードマップを作成するとともに、早期警戒システムの構築に関する予備的調査を行い、氷河湖決壊洪水に対する防災技術の移転を進める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・経済省地質鉱山局 	名古屋大学大学院 環境学研究科	

国名	クロアチア	案件名	クロアチア土砂・洪水災害軽減基本計画構築	
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関	
<p>クロアチアの土砂災害、局所的洪水災害が多発する地域を対象として、地盤構造・水文特性の科学的解明に立脚した信頼しうる危険度判定方法を確認し、それに基づく災害軽減のための国土利用基本計画を構築する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・スプリット大学 ・リエカ大学 ・ザグレブ大学 	新潟大学 災害復興科学センター	

【感染症】

国名	タイ	案件名	デング出血熱等に対するヒト型抗体による治療法の開発と新規薬剤候補物質の探索
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関
タイにおいて重要な新興・再興感染症の制圧に向け、有効な治療剤の開発を進める。特に、デング出血等に対して有効なヒト型単クローン中和抗体、タイ原産微生物・ハーブに由来する抗病原体物質の開発を進め、得られた候補についてタイの臨床サイドへの実用化を目指す。		・保健省医科学局	大阪大学 微生物病研究所

国名	ザンビア	案件名	結核及びトリパノソーマ症の新規診断法・治療法の開発
案件概要		主要海外研究機関	国内研究代表機関
結核及びトリパノソーマ症等を研究対象として、臨床分離株から得られた遺伝学的・免疫学的情報を基に新規診断法を確立・評価し、普及させる。また、新規診断法を基盤として対象感染症のサーベイランスネットワークを構築する。さらに、病原体抑制効果を有する化合物から系統的に誘導体を合成し、その効果を培養レベルで評価、動物実験を実施し、臨床試験の足がかりとする。		・ザンビア大学附属教育病院 ・ザンビア大学獣医学部/医学部	北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター